

# イベントレポート

## 第一回 圧入工学に関する国際会議

2018年9月19日（水）-20日（木）の両日、高知県香美市の高知工科大学にて、ICPE2018 組織委員会が『第一回 圧入工学に関する国際会議』（英名：The First International Conference on Press-in Engineering 2018, Kochi-ICPE2018）を開催しました。

国際圧入学会は、圧入技術の科学的な解明と普及を目的として2007年に設立され、今年で11周年を迎えたまだ若い国際的な学術組織ですが、圧入技術のさらなる国際的な社会実装を目指して日本語、英語で圧入技術に関するハンドブックを発刊し、アジアの諸国でセミナーを継続的に開催してきました。このような活動を基礎に、2017年2月にICPE組織委員会を発足、準備期間を経て、圧入技術の発祥の地である高知県で国際会議を開催することができました。会議には国際地盤工学会会長、土木学会会長、地盤工学会会長をはじめ、研究者・技術者・実務者・学生など、17カ国から418名の参加がありました。

近年の我が国の土木建設産業におけるキーワードである「国土防災」と「i-Construction」の2つに集約され、それに「地方創生」を加えた3つのキーワードを柱とした国際集会としてのICPE2018を開催しました。「地方創生」として高知県発祥の圧入技術を高知で開催する国際会議を通じて発信、「国土防災」として東南海地震による高知県での津波対策を会議主題の中心に据え、さらに「i-Construction」における生産性の向上と労働力不足の解決にはICT（情報通信技術）により知能化された建設機械が主要な役割を果たす、との認識をもとに本国際会議を企画しました。このような基本構想のもと、高知県をはじめとした28団体からの全面的な後援を得て、また公益信託土木学会学術交流基金を含む4つの助成を頂くことができました。

本会議では津波防災の世界的権威である東北大学 災害科学国際研究所 所長 今村文彦 教授と、ICT建機の開発で世界の先端を走る小松製作所の第一線の実務者である嶋田健二郎 氏を講演者に迎えて基調講演を実施しました。また、圧入技術の発明者であるIPA名誉会長 北村精男 氏からは、社会への寄与度と汎用性が高い圧入技術と機械の発明背景と今後の展望に関するビデオメッセージが発信されました。更にケンブリッジ大学と株式会社 技研製作所による長年に渡る圧入に関する共同研究の現況報告、オーガナイズドセッション「i-Constructionにおける建設機械の役割」、「研究者・設計者と建設機械オペレータとの対話」などを含む16の分科会を開催し、88件の論文発表を実施しました。参加者は熱心に各講演に聞き入り、各セッションでは活発な質疑応答や意見交換が行われる等、世界各国の圧入技術に対する学術的関心の高さが感じられる国際会議となりました。



東北大学災害科学国際研究所  
所長/教授 今村文彦 氏



株式会社 小松製作所  
チーム長 嶋田健二郎 氏



株式会社 技研製作所  
代表取締役 北村精男 氏

この他、圧入技術を活用することにより、幹線道路堤防の機能を維持した状態で堤防の強化が迅速に行われた高知県高知市の高知海岸堤防を実地見学、株式会社 技研製作所 高知本社において、「津波シミュレータ」や地下駐車場「エコパーク」、「世界杭打ち機博物館」の施設見学が実施されました。特に高知海岸堤防の実地見学では、実際の完成後の構造物をみた参加者からは、「よく道路を通行止めせずに、海岸堤防の補強を完成できたものだ。完成後の景観が見事に保持されており、補強された違和感がない。」と感嘆の声が上がり、日本発祥の土木技術、「圧入」の実用性を参加者に確認いただく良い機会となりました。また会議後の懇親会では高知県尾崎知事から本会議の成功に対して高い評価をいただき、非常に盛況な会議となりました。



開会の辞  
ICPE組織委員会  
委員長 日下部治 氏



歓迎の辞  
高知県 知事 尾崎正直 氏  
副知事 岩城孝章 氏（代読）



歓迎の辞  
高知工科大学  
学長 磯部雅彦 氏



歓迎の辞  
公益社団法人土木学会  
会長 小林潔 氏



歓迎の辞  
公益社団法人地盤工学会  
会長 大谷順 氏



歓迎の辞  
国際地盤工学会  
会長 Charles Ng 氏



懇親会挨拶  
高知県  
知事 尾崎正直 氏



世界杭打ち機博物館の見学



津波シミュレータの見学